

## 地球外生命体!? 信号キャッチも体験

### 駒ヶ根工業高生 豪で研修

駒ヶ根工業高校(駒ヶ根市)の生徒が今月上旬、オーストラリアの宇宙関連施設などを



キャンベラの観測施設でデータを記録する駒ヶ根工業高の生徒(右手前) 11月5日

訪れて研修に臨んだ。人工衛星の開発に取り組む生徒ら10人で、現地では地球外生命体に関する観測も経験。宇宙研究の最前線に触れた生徒たちは大きな刺激を受け、将来の夢を膨らませていた。

研修は、県が高校生の科学研究を支援するプロジェクトの一環。地球外生命体の観測は、首都キャンベラにある米航空宇宙局(NASA)の施設で行った。米国の関連施設からインターネットで指示を受け、直径34センチの電波望遠鏡を使って観測。人工衛星が発したものと異なる2種類の

信号を捉えた。

同様の観測は米国全土の高校も取り組んでおり、データが蓄積されている。同じ地点から繰り返し同じ信号が観測されれば、地球外生命体による可能性があるかと判断されるという。生徒たちは帰国後に観測データをまとめる作業に当たり、NASA関連の観測施設に送ってホームページで公開される予定という。

現地では人工衛星製作などの取り組みも紹介。機械科3年の堀内優真さん(18)は「伊那市は「刺激を受けた。自分もいつか日本を飛び出したいと夢を持てた」と充実した表情で話していた。

この記事・写真等は、信濃毎日新聞社の許諾を得て転載しています。

【許諾番号】 shin2018-komakou 74s